

令和6年（2024年）11月27日

西宮市議会議長 八木 米太郎 様

民生常任委員会 管内視察報告書

- 視察日時 令和6年（2024年）10月29日（火）
午後2時45分から午後4時20分まで
- 視察委員 委員長 菅野 雅一
副委員長 ありめこうへい
委員 大原 智
〃 しげひさ 大学
〃 田中正剛
〃 宮本 けいこ
〃 よつや 薫
〃 渡辺けんじろう
- 視察先 西宮市食肉センター 西宮市西宮浜2丁目32-1
- 視察事項 西宮市食肉センターについて
- 視察先対応者 産業文化総務課担当課長（食肉センター） 菌頭 淳一
産業文化総務課係長 山本 泰教

■視察概要

西宮市食肉センターは大正6年、武庫郡芝村の村営食肉処理場として開設。昭和8年の合併で西宮市営となり、昭和63年に現在の西宮浜に移転・整備された。

約9,548平方メートルの敷地に鉄骨3階建て延べ約6,424平方メートルの施設があり、食肉地方卸売市場を併設している。1日当たりウシ60頭とブタ250頭を処理できる。

処理頭数の減少が続いており、令和5年度はウシ6,735頭、ブタ2万9,257頭と、いずれも5年間で約3割も減った。管理運営費などの支出が施設の使用料等収入を上回る赤字が続いており、市が令和5年度に一般会計から補てんした金額は約2億1,800万円。

施設は老朽化しており、市は令和11年度以降、設備の更新に必要な金額を12億4,600万円と試算。市の厳しい財政から、これらの費用をねん出するのは難しいと判断。今年9月に令和11年度以降、公設として維持できないとの方針を

決めた。

その一方で、市は施設の閉鎖は経済波及効果や雇用問題などに影響を及ぼすことから、民営化による施設の継続を目指すことにした。施設を利用する食肉事業者でつくる西宮食肉事業協同組合と民営化に向けた協議を進めるとしている。

管内視察では、白衣を着用のうえ、各枝肉冷蔵室や大動物解体場、大動物内臓室、小動物内臓室、小動物解体場などを視察。その後、会議室で質疑応答を行い、食肉センターの今後のあり方について協議した。

以上

■ 視察風景

